

PLuS+FINAL 来場者アンケート分析結果

調査は、2010年10月10日、PLuS+FINALの展示パビリオン「+-=○」内にて実施。分析はぶんぶん（equal partner project）が担当した。

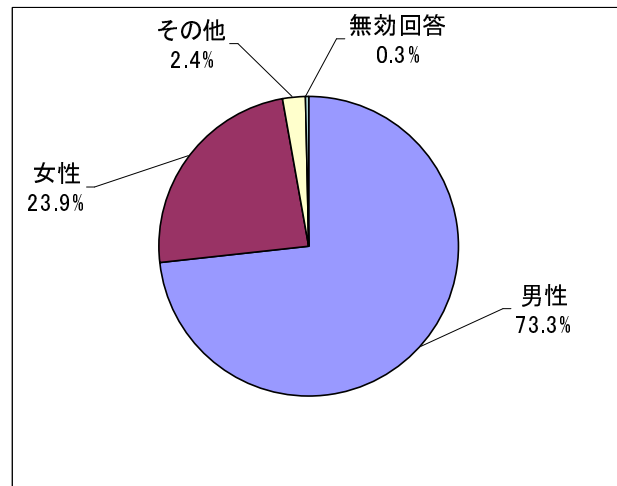
回収数は、330通で、PLuS+全体の来場者（約6,149名）の5%程度の来場であったと考えられる。例年と比べ、会場での回収状況に差は見られなかったため、昨年（398通、7%）、と比べて減っている要因については、今年はパビリオンが会場内にあったものの、ほかのイベントテントと同じような入口となっしまい、パビリオン自体が目立たなかったためではないかと推察される。

① 対象者属性

ゲイコミュニティのイベントである為、男性の比率、同性愛の比率が高くなっている。男性で、且つ同性愛、両性愛と回答した人数は全体の、62.6%となっている。平均年齢は32.0歳となっている。

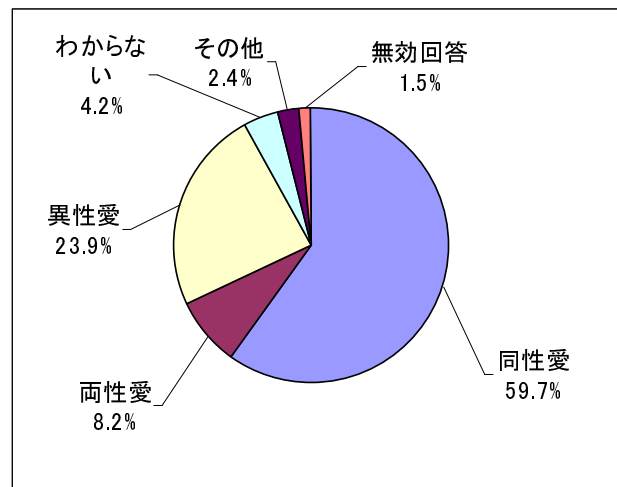
(1)性別

	2009年	2010年
男性	75.1 %	73.3 %
女性	20.6 %	23.9 %
その他	3.0 %	2.4 %
無効回答	1.3 %	0.3 %



(2)性的指向

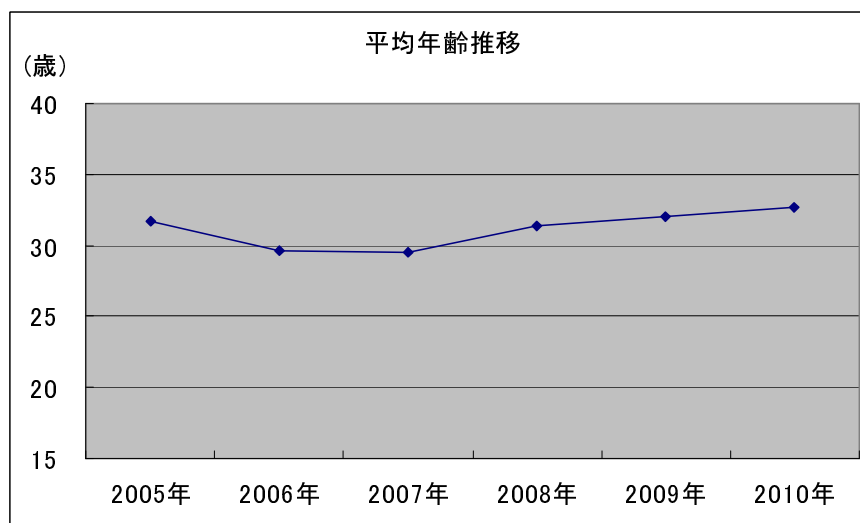
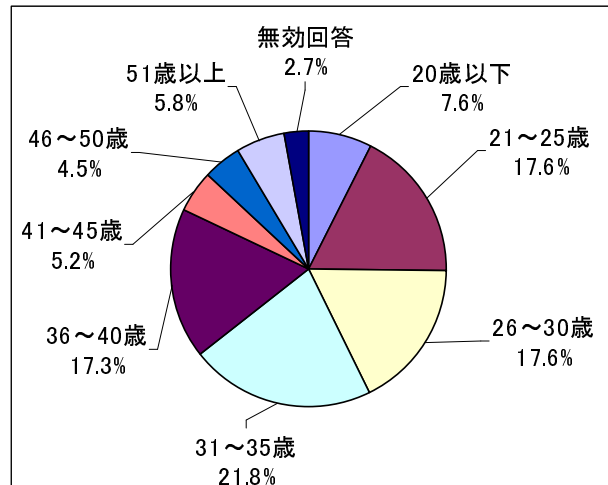
	2009年	2010年
同性愛	59.0 %	59.7 %
両性愛	7.8 %	8.2 %
異性愛	22.6 %	23.9 %
わからない	6.3 %	4.2 %
その他	2.3 %	2.4 %
無効回答	2.0 %	1.5 %



(3)年齢

20歳以下	7.6 %
21～25歳	17.6 %
26～30歳	17.6 %
31～35歳	21.8 %
36～40歳	17.3 %
41～45歳	5.2 %
46～50歳	4.5 %
51歳以上	5.8 %
無効回答	2.7 %

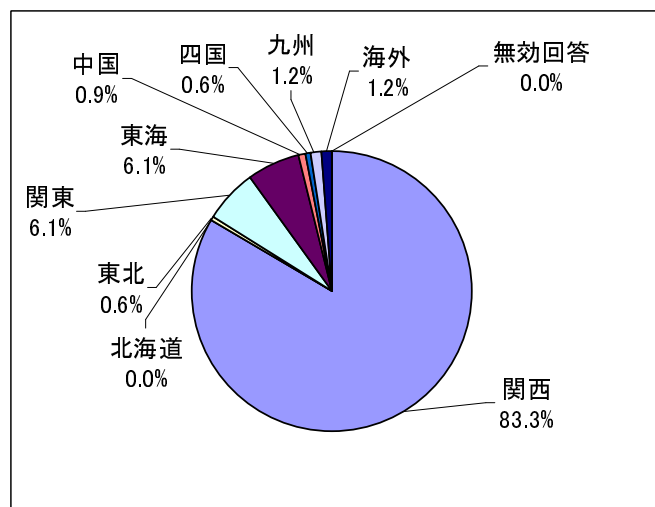
平均年齢	32.7 歳
------	--------



(4)居住地

関西	83.3 %
北海道	0.0 %
東北	0.6 %
関東	6.1 %
東海	6.1 %
中国	0.9 %
四国	0.6 %
九州	1.2 %
海外	1.2 %
無効回答	0.0 %

大阪	66.5 %
兵庫	14.9 %
京都	9.5 %
奈良	2.5 %
滋賀	2.9 %
和歌山	1.1 %
無効回答	2.5 %



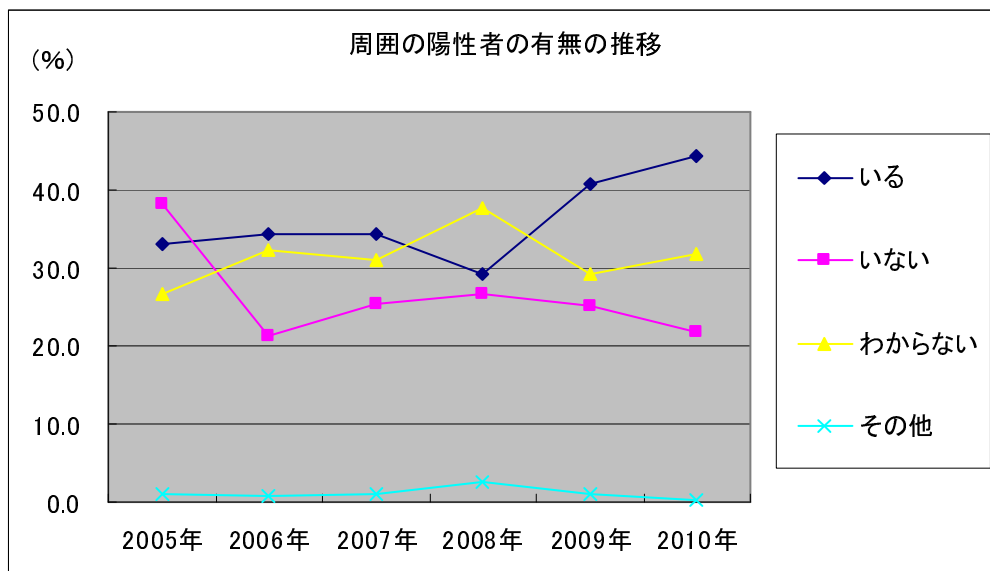
② 周囲の陽性者の有無

昨年に引き続き、周囲に陽性者がいる（陽性者であるを含む）との回答が増加している。陽性者であるという回答数は昨年とほぼ同数であったため、コミュニティ内の陽性者の増加ではなく、プロジェクト活動などによる、陽性者存在の可視化の結果と考えられる。

(単位:%)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
いる	33.0	34.3	34.5	29.1	40.7	44.2
いない	38.3	21.3	25.3	26.7	25.1	21.8
わからない	26.6	32.3	31.0	37.7	29.1	31.8
その他	1.0	0.7	1.1	2.5	1.0	0.3
無効回答	1.1	11.4	8.0	4.0	4.0	1.8

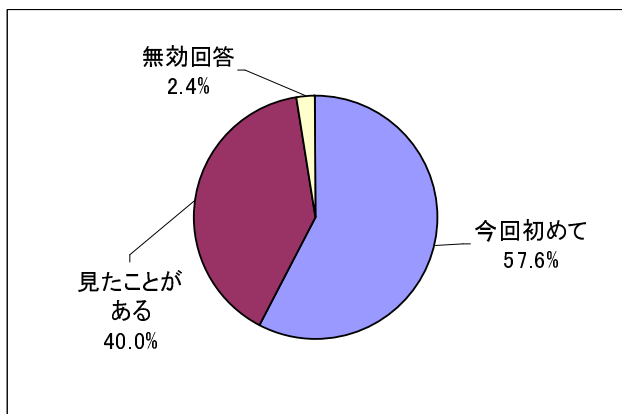
※ 2007年以降では「その他」に「答えたくない」を含む。
 ※ 2008年以降では「いる」に「陽性者である」を含む。



③ 過去に展示を見たか

過去に展示を見たことがあるとの回答が4.2%減少、会場については、PLuS+（扇町公園）が約58%であり、他にはdista（約6%）、chot CAST なんば（約5%）があがっていた。

	2009年	2010年
今回初めて	61.8 %	57.6 %
見たことがある	37.2 %	40.0 %
無効回答	1.0 %	2.4 %



④ 展示に関する評価

全体の評価に関しては、今年も8割以上の来場者から良い評価を得ている。今年は専用の手紙閲覧スペースを設けず、展示の出口からつながるカフェ・ペガサスで自由に閲覧できるようにしていた。アンケートは出口で回収していたため手紙に関しては無効回答が多くなっている。

(1) 企画全体として

	2007年	2008年	2009年	2010年
とても良かった	42.9 %	47.2 %	39.2 %	39.1 %
良かった	34.1 %	39.4 %	44.5 %	44.8 %
普通	12.3 %	8.4 %	11.6 %	12.7 %
あまり良くなかった	0.4 %	1.0 %	0.3 %	1.2 %
良くなかった	0.0 %	0.6 %	0.3 %	1.2 %
無効回答	10.3 %	3.4 %	4.3 %	0.9 %

(2) パネルの写真について

	2007年	2008年	2009年	2010年
とても良かった	30.7 %	37.7 %	28.9 %	32.7 %
良かった	45.6 %	40.4 %	36.2 %	39.1 %
普通	17.2 %	15.2 %	27.4 %	23.3 %
あまり良くなかった	1.1 %	2.9 %	3.5 %	2.1 %
良くなかった	0.0 %	0.6 %	0.3 %	1.2 %
無効回答	5.4 %	3.2 %	3.8 %	1.5 %

(3) パネルの言葉について

	2007年	2008年	2009年	2010年
とても良かった	36.8 %	49.1 %	38.9 %	37.0 %
良かった	39.8 %	37.7 %	42.2 %	40.3 %
普通	12.6 %	8.4 %	13.8 %	17.6 %
あまり良くなかった	0.4 %	0.6 %	1.0 %	2.1 %
良くなかった	0.0 %	0.8 %	0.3 %	1.2 %
無効回答	10.3 %	3.4 %	3.8 %	1.8 %

(4) 手紙について

	2007年	2008年	2009年	2010年
とても良かった	18.0 %	51.6 %	41.2 %	27.3 %
良かった	29.1 %	32.6 %	35.7 %	33.6 %
普通	13.4 %	9.3 %	13.8 %	22.1 %
あまり良くなかった	0.4 %	0.0 %	1.0 %	0.9 %
良くなかった	0.0 %	1.0 %	0.0 %	1.5 %
無効回答	39.1 %	5.5 %	8.3 %	14.5 %

※ 2007年は手紙閲覧場所がアンケート回収後であった為、無効回答が多かった。

(5) Tシャツについて (※この設問は今年から)

	2010年
とても良かった	29.7 %
良かった	32.1 %
普通	29.1 %
あまり良くなかった	2.4 %
良くなかった	1.2 %
無効回答	5.5 %

⑤ 2010年アンケート自由記述

総評：パビリオンの出口すぐが、「カフェ・ペガサス」となっており、記入をするスペースをとっていなかったことからアンケートをじっくり書く来場者がほとんどなかったため、昨年より自由記述の量が非常に減っている。

- 以前よりメッセージ性がきわだってきたのかな？
- 一部の陽性者の意識は変わったかもしれないけど、やっぱり根本的なところは変わらないように思う。これと同じで、社会一般的な HIV/エイズに対する考え方や陽性者に対する考え方も根本的には変わっていない。それは書き込まれたコメントの端々にみられる（かわいそうな人、感染者、普通の人ではない等）。もしかしたら HIV/エイズはどんどん社会的には後退しているんじゃないか？
- 4年前の PLUS+に初参加して、+-=○の展示に衝撃を受けました。自分の無恥さを恥じており、勉強している最中です。これからも活動頑張ってください。
- スタッフになりたい。
- スタッフの方々の活動に感謝します。少しでも陽性者になる人が少なくなり、苦しむ人をなくしてほしい。また、身近な問題であると思ってくれる人が増えることを祈っています。これからも皆さんの活動を期待しています。
- モデルがかわいい。
- 陽性の人の意見も知れて良かった。先進国の中で唯一感染者が増加している日本では、もっとメディアを通して、HIV 予防に対する積極的な働きかけをしていくべきだと思う。まず、一般の人の知識が少ない所から改善させていくべきだと思う。
- このパネルに書いてくれた方々はある程度 HIV/AIDS について知識がある人達だと思うので、一般の人々、HIV/AIDS という意味を知らない関心がない人のコメントも見てみたいと思った。HIV+ & - の人々の意見をこの目で見ることができ、とても勉強になった。私はアメリカで AIDS NETWROK という Organization でボランティアをしていたので、AIDS/HIV 関係にとっても興味があり、それに関連した仕事に将来就きたいと思っている。やはり、どれだけ多くの人々に関心を持っていただけるかで、この病気の拡大を促すことができるので、このような活動はとても大事だと思い、感心しています。これからもお互い頑張りましょう。
- もっとゆっくり見たかった。となりうるさすぎ。

- 手紙オモイ…。
- ファイナルは嫌やわ～！
- 点字のもあったらいいな～。
- 写真をもっと多くしてほしい。
- また落ち着いて手紙を読めるスペースを作って！！
- 正直言って自分は 40 歳になってセックスとかが重要なことではなくなったで、今後、H I V 問題への関心ももてるかどうか分からない。
- 毎年ごくろうさまです。
- 自分はいまだ検査は受けていないです。なんでだろ??? パネルの写真一通り見て、「男」ばかりやったような気がして見返したらそんなことなかった。偏見って常にある。
- わずか数分だけれど考える機会ができたので感謝。
- カミングアウトすること。陽性者として生きるということ等について。日常施活で、ひた隠しにしてつきあっている人間関係と陽性者同士で知っている仲間での人間関係と 2 つの人間関係を TPO で使い分けてるうちに自分自身の人格が乖離してゆくようでとても怖くなることもある。
- どっちも大切にしたいけど、どっちの自分にもなりきれないような。どっちの人間関係が無くなっても、僕の人格は壊れてしまいそうで。
- 陽性の人間関係も失いたくない！
- ポジの人もネガの人も、見た目も暮らし方もほとんど一緒。ただ少し薬を服用したりとか気を使うことがポジの人はあるだけ。
- HIV の人に限らず、誰かとセックスするのはちょっと怖い。その人がどんな病気をもっているのかわからないから。コンドームしてても。
- むずかしい問題ですね～。
- きっといつかは…治る病気だと信じています。

以上